

　調布｢憲法ひろば｣は6月10日(土)たづくり8階｢映像シアター｣で第190回例会を開催。「一緒に学びましょう！ 戦争をさせないＡＳＥＡＮの

第**218**号

**6月15日**

**２０２３年**

**発行:調布九条の会「憲法ひろば」**

----------------------------------------------------------

〒182-0022 調布市国領町2-5-15 あくろす2階

市民活動支援センター内メールボックス６番

-----------------------------------------------------------

郵便振替**00170-6-445473** 加入者名**大野哲夫**





仕組み－－相違でなく、総意求めて、平和を築く」と題してジャーナリストの鈴木勝比古さん**(左写真)**にお話いただきました。参加は41人(内ズーム参加7人)。進行は石山久男世話人**(右下写真)**、記録は岩本努世話人が担当しました。　　　　　　**(編集部)**

**＜文中の注＞**

(\*1)ASEAN＝Assosiation of South-East Asian Nations

(\*2)EAS＝East Asia Summit

**第１９０回**

**憲法ひろば**

**E-Mail：choufu9jou@yahoo.co.jp**

**WEBサイトhttp://choufu9jou.sakura.ne.jp**

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

ノートパソコンを使っている女性

低い精度で自動的に生成された説明

**戦争をさせないＡＳＥＡＮの仕組み**

**総意を求めて平和を築く**

**Ｇ７サミットとグローバルサウス**

　鈴木勝比古さんは１９９１年から４年間｢赤旗｣特派員としてルーマニアのブカレストに滞在。ルーマニアはウクライナの南に隣接する国。ルーマニア赴任中は黒海に臨むドナウデルタでウクライナの漁民と交流したことがある。そのため、ウクライナの現状には関心があるし、ルーマニア滞在をふくめ15年間を海外特派員として、インド、ベトナム、東南アジア、中東、東欧など主に「グローバル･サウス｣とよばれる国々を取材してきた。その体験から現代の世界の動きを見ると、これからはグローバルサウスの動きをもっと注目してよいと思われる。日本のメディアは先日の広島サミットについても、核兵器の廃絶についてあまり積極的に言及しない。マハティール元マレーシア首相(97歳)は「ある国のグループが自分たちの敵だと信じている、同じような考えを持つ人たちが集まって会議を開き、自分たちに有利な決定をした場合、それは世界をリードするものではない。世界は共通の問題に直面しているからだ。核戦争は、ターゲットとなる国だけでなく、ミサイルを発射した国にも影響を及ぼす。放射能は世界中に拡散するからだ」と批判している（５月24日、日本外国特派員協会での記者会見)。ブラジルのルーラ大統領も５月22日の広島での記者会見で「核兵器は安全保障の源ではなく、われわれ人類を否定し、地球上の命の継続を脅かしている。核兵器が存在する限り、それが使用される可能性はある」と発言している。

**ＡＳＥＡＮの創立と発展の歩み**

　こうした発言ができる背景に何があるのか。鈴木さんはＡＳＥＡＮ　　\*1(東南アジア諸国連合)の存在とその活動があるという。ＡＳＥＡＮはアメリカのベトナム戦争の真っただ中の１９６７年に設立された。原加盟国はインドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ。これらの国は当時米国と同盟関係にあり、米国は東南アジアを反共の防波堤にしようとしたが、ＡＳＥＡＮの創立者たちは東南アジアの自立の道を求め、創立宣言に「すべて外国の基地は暫定的なもの」と記すなど米国のベトナム戦争とは一線を画し、東南アジア中立地帯構想の提唱(１９７１年)からベトナム戦争終了後の東南アジア友好協力条約締結(１９７６年)へと進み、タイ、フィリピンの米軍基地を撤去した。ＡＳＥＡＮの加盟国はブルネイ(１９８４年)、ベトナム(95年)、ラオス(97年)、ミャンマー(97年)、カンボジア(99年)と拡大し、現在東ティモールが加盟待機国となっている。

　講演ではこうした歩みを、東南アジアの歴史（古代東南アジアの隆盛、多様性が育んだ包摂的な文化、西欧列強による植民地化、日本の侵略、東南アジア諸国の独立、アジア・アフリカ会議、９･30事件とベトナム戦争）を写真を見せながら説明された。

　そして、ＡＳＥＡＮの歩みの中で一つの頂点を記しているのが、将来の東アジア共同体の創設を視野に入れた首脳会議＝ＥＡＳ\*2(東アジア首脳会議)の設立(２００５年、アジアとオセアニアの16か国とアメリカ、ロシアを加えた18か国)と「ＡＳＡＡＮインド太平洋構想」（２０１９年採択）だという。

**｢ＡＳＥＡＮインド太平洋構想｣と日本の未来**

　ＡＳＥＡＮがめざす構想に入っている地域は、世界一広大な面積と世界人口の約半数をを占めている。ＡＳＥＡＮはこの地域の平和・安定・繁栄をめざしているが、現実には、この地域では米国と豪、英によるＡＵＫＵＳに日本とＮＡＴＯが結びつき中国封じ込めをめざした軍事ブロック化が進みつつある。ＡＳＥＡＮはこうした逆流に抗して知恵と力をつくし、対案としての｢インド太平洋構想(ＡＯＩＰ)｣を提起し、その実現をめざしている。

　こうしたＡＳＥＡＮの努力に反して、日本政府は軍事大国化をめざし、５年間で43兆円にのぼる軍備拡大を計画し、放置すれば核兵器の配備にも進みかねない。日本の侵略・植民地化を体験したアジア各国は、戦後日本の平和憲法による｢不戦の誓い｣を支持し、日本との経済関係を拡大してきたが、最近の日本の大軍拡の推進には懸念し、警戒し始めている。日本の平和・民主組織は、この日本政府の大軍拡と平和憲法改定の動きに対してどのようにたたかうのか、アジア各国のメディアや各国のＮＧＯなどが注目している。**（岩本 努･記）**

**ジャーナリスト**

**鈴木勝比古さん**

**お話：**

人, 屋内, 立つ, 男 が含まれている画像

自動的に生成された説明

屋内, 部屋, テーブル, 暮らし が含まれている画像

自動的に生成された説明